

環境〈E〉



「みどりあふれる豊かな地球」を
未来と子どもたちに残すため、
全ての活動を通して、地球環境保全に貢献。

私たちは、地球から水・食料・衣料やゴム・樹脂・金属などの原材料をはじめ、多くの資源を得ています。その一方で、日常生活や事業活動を通じ、温室効果ガスの排出、資源の使いすぎによる枯渇などのダメージを地球に与えています。

当社は、長期ビジョン「TG2050環境チャレンジ」のもと、5年ごとのアクションプランを策定し環境保全活動を推進しており、これらは新聞社によるランキングなど社外から高い評価をいただいています。私たちは、社会の期待に応える環境経営を実現していくため、昨年、TCFDの提言に賛同し関連情報の開示を進めています。今後も、企業風土や人づくりにも積極的に取り組みながら、持続可能な環境保全活動のさらなる強化に努めてまいります。

取締役・執行役員、環境部担当本部長、生産本部長、安全健康推進部担当本部長 安田 洋

基本的な考え方

豊田合成グループは、「環境基本方針」のもと、1993年に第1次環境取り組みプランを策定し、環境課題に積極的に取り組んできました。2016年2月には、長期目標「TG2050環境チャレンジ」を発表するとともに、2020年度までの5年間の活動項目と目標を設定した「第6次環境取り組みプラン」を策定し、環境保全活動を推進しています。

社会の期待に応える環境経営を実現していくために、米州、中国、アジア地区に環境統括機能を置き、世界を4極でエリア管理するグローバル体制を整備しています。今後、環境チャレンジの中間地点である2030年を見据え、グループ一丸となって、活動を着実に進めていきます。

環境基本方針

1. 環境に配慮した事業活動の推進

開発・生産・販売の事業活動から廃棄までの全ての段階で、環境と深く関連していることを認識し、社内全部門はもとより、国内外関係会社、仕入先を含めた豊田合成グループとして、顧客・行政なども協力・連携し、環境に配慮した事業活動を行う。

2. 企業市民としての取り組み

良き企業市民として、地域・社会の環境活動に取り組むとともに、各団体の環境活動への参加、支援・協力を行う。また、社員一人ひとりが地域・社会の一員として環境活動に取り組むための啓発を行うとともに、社会貢献・ボランティア活動を支援する。

3. こうした活動の情報を

広く発信するとともに、
各層からの意見を聴取し、
さらなる改善活動に努める。

TG2050環境チャレンジ

～みどりあふれる、豊かな地球を未来と子どもたちに～

ゴム・樹脂の高分子分野の専門メーカーである当社が象徴としている六角形の「ベンゼン環」(高分子の原点となる構造体)にちなんだ「6つのチャレンジ」を掲げ、2050年を見据えた長期的視点で環境保全活動を推進していきます。

TCFDの提言に賛同

当社グループは、2019年5月、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に賛同を表明し、TG2050環境チャレンジで掲げる「脱炭素社会の実現」に向けた施策とともに、関連情報の開示を積極的に推進しています(詳細はウェブサイト公開)。2020年4月には、2030年までのCO₂排出量目標を公表し、取り組みを加速させています。





推進組織

環境に関する中長期方針や重要な取り組み事項は、社長を委員長とする「環境委員会」で審議・決定しています。「環境委員会」の下部組織は、製品・生産・品質の分野で構成される4つの分科会があります。さらに、分科会の下部組織には、エネルギー使用量・廃棄物量・VOC^{※1}排出量の低減や環境保全活動な

どを推進するワーキンググループを設置し、専門的な視点から環境保全や管理を行っています。

また、国内外の関係会社との情報共有の場として連絡会を設けています。2019年からは生産技術と現場のモノづくりの連携を強め(合同生産環境部会を新設)省エネ活動を進めています。

※1 揮発性有機化合物 (Volatile Organic Compounds)

環境組織体制図



※2 環境委員会の位置付けは、「コーポレートガバナンス体制図(P29参照)」による

環境委員会、各分科会から工場などへの展開は、各工場 ISO14001 システムなどに従い専門委員会を設置して対応しています。

気候変動・資源枯渇に関する「リスク」と「機会」

気候変動・資源枯渇に関する「リスク」と「機会」を重要な経営課題と認識しています。異常気象の深刻化や降雨パターンの変動、渇水や洪水による経済、生産活動への影響など、財務的かつ社会全体やサプライヤーへのリスクに対し、法規制や動向を踏まえ、グローバルな視点で対応強化を図っています。

	リスク	機会
気候変動	炭素税やエネルギー価格の高騰によるコスト増加	軽量化、次世代カー製品開発省エネ促進によるコスト低減
資源枯渇	水不足、水害による生産活動への影響 材料調達難、材料価格の高騰によるコスト増加	水の再利用、使用量削減によるコスト低減 リサイクル技術、材料使用量の減少によるコスト低減
マネジメント (法規制順守)	法違反などの環境問題、環境保全に対する取り組み不足から生じる企業の信頼失墜	環境活動の強化によるブランド力の向上

事業活動における資源投入と環境排出

エネルギー、材料などの投入資源を少なくし、製品としてのアウトプットの極大化を図るために、商品開発力、工法開発力、現場の改善力を活かし、事業活動を通じた改善に取り

組んでいます。

また、投入資源も、環境に配慮した材料、クリーンエネルギーを活用しています。

INPUT

総物質投入量	45,974t	ゴム(練生地)	17,820t
樹脂	28,154t	購入部品、金属、液体は除く	
総エネルギー投入量	257.1万GJ ^{※3}	重油	1.2万GJ
購入電力	124万GJ	灯油	0万GJ
再生可能エネルギー電力	2.5GJ	LNG	12.6万GJ
都市ガス	119万GJ	ガソリン	0.1万GJ
LPG	0.2万GJ		
水資源投入量	126万m ³	上水	21.4万m ³
工業用水	69.6万m ³	地下水	35.0万m ³
PRTR ^{※4} 対象物質使用量	593t		

※3 ギガジュール(1,000,000,000J)
※4 Pollutant Release and Transfer Register (環境汚染物質排出・移動登録制度)

※5 硫酸酸化物
※6 窒素酸化物

※7 Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

※8 対象範囲:春日・稲沢・平和町・瀬戸の4工場、北島技術センター、美和技術センター、サンコート井之口

OUTPUT

製品		事業活動	
大気への排出		NOx ^{※6}	108t
CO ₂	10.6万t-CO ₂	ばいじん	0t
6ガス	0.02万t-CO ₂	PRTR対象物質排出量	91t
SOx ^{※5}	0t	VOC ^{※7} 排出量	270t
廃棄物などの排出		一般廃棄物量	7t
埋立廃棄物量	0t	有価物量	5,893t
焼却廃棄物量	1t	PRTR対象物質移動量	59t
産業廃棄物量	7,203t		
排水		窒素排出量 ^{※8}	8.3t
総排水量	93万m ³	リン排出量 ^{※8}	0.5t
PRTR対象物質排出量	0.1t	COD排出量 ^{※8}	4.1t